

滝上町立滝上中学校 学校だより

滝上町学校教育目標 学ぶ意欲・豊かな心・健やかな体

重点目標：「向上心をもって、主体的に学び合う生徒」の育成

学校評価（保護者アンケート）より

後期学校評価を実施し、生徒、保護者、教職員のそれぞれから、評価をいただきました。ご回答ありがとうございました。その中で保護者から頂いたご意見は2本ありました。それぞれについて、学校としての考え方や現状を回答させていただこうと思います。

保護者アンケートより

・5について

化学物質過敏症や電磁波過敏症を発症する人がいることを、先生方にも知っていただきたいと思います。化学物質過敏症は国内で7.5%、電磁波過敏症は国内で3.0~5.7%、EU諸国で10%前後の有病率といわれています。どちらも微量（基準値内）の化学物質や電磁波によって、頭痛、めまい、吐き気、疲労感、眠気、集中力や思考力の低下などの症状が起きます。有識率が低く、症状の出現・消失に暴露との時間差がある場合もあるため、症状があっても原因不明とされている例も多いのではないかとされています。

今年度から新校舎になり、環境が変わったため、気密性、タブレット・ルーターなどで使われる無線周波数帯の電力密度なども、以前と変わったのではないのでしょうか。

過敏症の発症には個人差が大きく一概には当てはまらないかと思いますが、生徒たちが健康に、学校生活を送れるよう、様々な観点の情報共有をして頂けると嬉しいです。

以上をふまえて、2点要望があります。

(1) 二酸化炭素濃度測定器の教室への設置

※濁川小学校で最近導入していました。換気の目安として、とても良いと思います。

(2) 学習効果と代替手段（PCや紙の教科書、付せん紙を使用する話し合い活動のこと）を検討しながら、現状のICT教育の維持

※デジタル教科書の導入が一気に進むなどすると、バランスが悪いのではと心配です。

→ご意見ありがとうございました。5(1)については、二酸化炭素測定器の教室への設置が、換気の目安になるとのご指摘と受け止めました。コロナの第二波が来て以来、滝中での「換気」対策は、授業が終わった先生が窓を開け、次の授業の先生が窓を閉めるようにしてきました。

ご指摘の二酸化炭素濃度の検査については、毎年実施し、今年度につきましては、令和4年1月6日に教室の空気環境測定を実施することになっております。前日より5時間以上教室を密閉し、室温を18℃以上に保ち、二酸化炭素濃度の測定などを行います。「換気」については、コロナ対策からも、これまで先生方に十分対応をしてもらってきました。先生方の対応に不足があったでしょうか。

→ご意見ありがとうございます。5(2)については、無線環境下での授業やデジタル教科書を使用した授業、さらにタブレット端末を使用している意見交流だけではなく、有線環境下で使用しているパソコン室等での調べ学習、付せん紙などを使って話し合い活動を取り入れる授業などをバランス良く進めるよう検討して頂けないかという、ご指摘と受け止めました。

以前実施した情報環境調査でも同様の回答をさせていただきましたが、調べ学習などにおける現状は、パソコン室で授業をすることも多く、教室や体育館などでのタブレット端末使用の状況と、パソコン室でのデスクトップ型のパソコン使用の状況は半々ぐらいという現状です。それぞれの特性をしっかりと理解し、先生方が工夫しながら最適な学びにつながるよう心がけています。

デジタル教科書についてですが、指導者用デジタル教科書（先生用）が滝上中で導入されているのは2教科だけです。教室に設置した固定パソコンから有線でテレビに映し出して使用しています。教科書の中の課題や画像、図面、計算式などを分かりやすく、視覚的に補ってくれる教材を多く含んでいます。デジタル教科書の良さは、テレビなどに投影して、生徒たちの視覚的な学びにつなげられる教材がたくさん使える有効なツールだと感じています。教科書や資料集では表現できない音声教材、英語の発音時のくちびるの動き、作図教材などを使える良さもあります。生徒たちがタブレット端末で使うことができる学習者用デジタル教科書（生徒用）が滝上中で導入されているのは1教科だけです。

滝上中では、指導者用・学習者用の両方を合わせても3教科しかデジタル教科書は導入されておりません。大都市圏の小中学校では、すでに数年前には全教科使えるようになっている学校も多いのですが、滝上町ではGIGAスクール構想に合わせ、ようやく教育委員会が主導し、導入にこぎつけてくれました。指導者用も学習者用もライセンス制になっており、使用できるようになるまでに何ヶ月もかかった大切な教材だという認識でいます。

私たち自身、まだ上手に使えていない面もありますが、私たちが思っている以上に教育界のデジタル化の潮流は大きなうねりとなって、押し寄せてきているように思います。新たに転勤してくる先生方が、前任の学校で普通にデジタル教科書を使って授業していましたということは、想像にかたくなさを感じます。

バランスが心配ですというご指摘ですが、現状として、使える環境や状況に追いついていないというのが実際です。教育委員会が苦労しながらも、滝上町の児童生徒のために導入にこぎつけてくれた教材ですので、先生方も研修に努め、生徒たちの学びにつながるよう大切に使用させていただきたいと思っています。

保護者アンケートより

・その他について

身体的弱者（健康に関することも含め）に対する対応、考え方にも気を配ってほしい。

→ご意見ありがとうございました。私たちは、生徒の体調や体質、性格的な特質や特性をしっかりと共有して指導に努めていますが、ご指摘にあるような「身体的弱者」という見方で生徒と向き合ったことがありません。生徒一人一人が、集団の中でどう学ぶことができるか、将来社会に出たときにどういう力を身につけさせていきたいかという視点、個々への配慮すべきこと、支援できることに気を配ってまいりました。

例えば、朝の職員打合せの時に、体調を崩している生徒の対応や、そのことに対して職員をどう配置するか（誰が誰の対応をするか）など、全体で情報共有をしています。また、毎月の職員会議の中では、生徒交流という時間を設け、同様の情報共有と生徒をどう支えていくかの確認を行ってまいりました。

入学時や進級時に報告を受けた生徒については、アレルギー対応や、健康に関して配慮すべきことの申し出を全体共有しています。心肺蘇生関係での「AED講習」や、アナフィラキシーショックを起こした生徒への「エピペン」の学習会、緊急時のタンカの設置なども、本校舎に移動してから、行いました。体調を崩して欠席した生徒のことや、通院した生徒で配慮すべきことがあれば、その情報も毎くそれぞれにあった対応をしています回全体共有しています。

詰め襟学生服やセーラー服も、制服①、制服②としてどちらを選択してもいいように校則も変更してきましたし、オストメイトの対応トイレも、車椅子の対応もできる施設になっています。

朝が弱い生徒の対応や、お腹を壊しやすい生徒の対応、水筒の対応、塩分の準備、保温、加湿、冷風機や扇風機など、できる限りの配慮に努めてまいりました。37人の生徒を全職員で見守って行こうとしているのは、どの学校にも劣らないと思っています。

また、私たちは、放課後子どもクラブや、託児所のような感覚で生徒を預かってはおりません。それは、私たちが中学校の職員であって、託児を任された者ではないからです。

私たちは生徒の学びを支える教育者としてのスタンスを変えることなく、誠実に、そして真摯に向き合っていこうと思っています。これからも個々の特性や体調に気を配り、多様性を認め、集団の中でみんなを育てていきたいと考えています。